

【議事概要】

第7回後志利別川流域治水協議会及び第10回後志利別川水系外大規模氾濫に関する減災対策協議会 合同開催 1 / 5

※後志利別川流域治水協議会を以下、「流域協議会」という。後志利別川水系外大規模氾濫に関する減災対策協議会を以下、「減災協議会」という。「流域協議会」「減災協議会」両方を以下、「両協議会」という。

開催日時：令和8年2月26日（木）13：30～15：10

開催場所：今金町民センター 1F 町民ホール

開催方法：対面＋WEB会議による議事

参加機関：せたな町、今金町、檜山振興局、渡島総合振興局、函館地方気象台、渡島森林管理署、北海道警察函館方面せたな警察署、檜山広域行政組合せたな消防署、檜山広域行政組合今金消防署、北檜山市街地町内会、今金連合町内会、田代地区連合自治会、函館開発建設部

※順不同



<議事（1）流域治水協議会と減災対策協議会の概要> 資料-1

・「両協議会」の目的、主な実施内容、経過報告および今後の予定について事務局より説明。→異議無し。

<議事（2）規約について（「流域協議会」）> 資料-2

・規約改定無し。→異議無し。

<議事（3）幹事会の報告（「流域協議会」）> 資料-3

・令和8年1月21日にWEB開催された第8回後志利別川流域治水幹事会での議事事項を事務局より説明。
→異議無し。

<議事（4）流域治水プロジェクト2.0と令和7年度自分事化に向けた取組フォローアップおよび次年度の自分事化に向けた取組計画（案）について（「流域協議会」）> 資料-4

・流域治水プロジェクト2.0を事務局より説明。

・住民や企業等が自らの水害リスクを認識し、自分事として捉え、主体的に行動することに加え、流域全体の水災害への取組へと行動を深化させていくことを目的とした「後志利別川流域治水協議会自分事化に向けた取組計画」の令和7年度の取組状況、令和8年度の取組計画案を事務局より説明。

→異議無し。

<議事（5）規約について（「減災協議会」）> 資料-5

・規約改定無し。→異議無し。

<議事（6）後志利別川流域タイムライン勉強会（「減災協議会」）> 資料-6

・令和8年1月20日に開催された後志利別川流域タイムライン勉強会を事務局より説明。→異議無し。

<議事（7）後志利別川水系外の減災に関する取組方針について（「減災協議会」）> 資料-7

・後志利別川水系外の減災に関する取組方針改定について事務局より説明。→異議無し。

<議事（8）流域治水・減災対策の取組について（「両協議会」）> 資料-8

<議事（9）意見交換（流域治水および減災対策の推進について）（「両協議会」）>



【議事概要】 第7回後志利別川流域治水協議会及び第10回後志利別川水系外大規模氾濫に関する減災対策協議会 合同開催 2 / 5

■せたな町 ■ ※「両協議会」所属

【取組状況等】

- ・町内の小中学校で「1日防災学校」、せたな、今金在住の外国人35名を対象に、防災講話と避難所体験を実施した。
- ・建設協会からの要望を踏まえ、水害時の応急対応に備え大型土のう袋200袋を購入し、除雪センターに備蓄した。

【代表者コメント】

- ・公共下水道事業で雨水浸水対策工事を継続するとともに、雨水浸水想定図をもとに脆弱箇所の対策を実施する。
- ・町で管理する排水機場は老朽化が進んでおり、西兜野排水機場は機械・電気設備の改修が令和7年度で完了予定である。
- 今後、他の老朽化している排水機場も同様に全面改修の事業化を北海道・開発建設部と検討していきたい。
- ・自主防災組織の結成・活動には補助金等の支援を行っており、令和7年度は新たに2組織が結成され、町内で計19組織になった。今後支援も継続し防災力の強化を行っていききたい。
- ・漁業の町として、サケ・サクラマスなどの資源を含めた河川環境への配慮した管理をお願いしたい。



■檜山振興局 ■ ※「両協議会」所属

【取組状況等】

- ・治山対策は今金町において昨年度に引き続き治山ダムを施工した。次年度からは今金町で山腹斜面の崩壊防止対策を実施する。
- ・森林整備は毎年継続して植栽、間伐を実施しており、令和7年度は北檜山地区、今金地区で植栽、間伐を行った。これらの対策を継続し、森林の水源涵養機能、国土保全機能を高めることで、流域の保全に努めたい。
- ・農業施設は西兜野排水機場の設備更新を実施した。豪雨時における内水排除をより確実に実施する。

【代表者コメント】

- ・農業・森林・砂防整備を継続し、流域全体の水害軽減に寄与する。
- ・両町の避難訓練・防災教育への支援も積極的に取り組む。災害が発生した際は、被害拡大防止のため情報の収集・伝達が重要である。関係機関と連携して対応していきたい。

■今金町 ■ ※「両協議会」所属

【取組状況等】

- ・令和4年8月の大雨を教訓に5～11月は排水ポンプを常時運転できる体制を整えている。
- ・役場職員向け防災研修を実施。備蓄物資の組立・使用方法も訓練した。
- ・自治会連合会・自衛隊など多数機関と合同で防災研修を実施した。
- ・令和7年4月に防災ガイドマップを全戸配布。自治会町内会連合会情報共有会、役場職員研修、すくすく親子広場など多様な場で活用した。
- ・「清流まつり」を通じ、河川への親しみと防災意識の向上に取り組んでいる。

【代表者コメント】

- ・令和4年大雨災害の経験を踏まえ排水ポンプと発電機の配備を進め、今年度はさらにポンプ2台を追加予定である。
- ・河川事務所の河道掘削・樹木伐採により、同規模降雨でも最大被害を床下浸水に抑えられるとのデータをいただいている。
- ・次年度は後志利別川合同排水訓練実施の準備を進めている。役場内部でのポンプ設置シミュレーションでは設置に時間を要することが明らかとなったが、常時設置により大幅に改善した。
- ・大型ポンプ設置にクレーン車が必要であるが、他地域の大規模事業に出回り、確保できないことがあった。大雨が予測された際は早期の確保が必要である。
- ・町内会・関係機関と連携し、防災ガイドマップを活用した研修、清流まつりでの啓発を継続する。
- ・流域タイムラインを通じせたな町との広域流域防災に取り組んでいきたい。



■渡島総合振興局 ■ ※「両協議会」所属

【取組状況等】

- ・真駒内川では河道掘削・盛土・護岸工を実施し、令和7年度で事業完了見込みである。
- ・トンケ川では河道掘削・盛土・護岸工を実施している。

【代表者コメント】

- ・後志利別川の3河川および太櫓川において、河川整備を進めており、治水安全度の向上に努めている。
- ・その他河川の河道内においても浚渫や樹木伐採を実施しており、R8も緊急浚渫推進事業債を活用し氾濫軽減を継続する。
- ・2級河川60水系の流域治水プロジェクトは昨年3月までに概ね策定済みで、掘削・築堤に加え、浸水頻度が高い農地では河川掘削土を活用したかさ上げで安全度を高める。
- ・グリーンインフラの観点から、掘削時は可能な限り河畔林の残置など自然環境に配慮する。
- ・気候変動下での災害頻発・激甚化を踏まえ、関係機関連携で目標を共有し、流域治水・減災を着実に推進する。

副局長（函館建設管理部担当）
多羽田 元己

■渡島森林管理署 ■ ※「流域協議会」所属

【取組状況等】

- ・今金町内のピリカスキー場ゲレンデコースにて地すべり対策の効果判定業務を実施し、土砂災害から地域を保全している。
- ・今金、せたな地区の国有林内で森林整備(下刈・間伐)を実施し、山地災害から地域を保全している。

【代表者コメント】

- ・大規模な林野火災が発生すると、保水機能の回復に長い年月を要する。
- ・春先～初夏は林野火災に注意が必要である。山での火気の取り扱い、森林近辺での火の始末について一層の注意をお願いしたい。



署長 久保 武典

■函館地方気象台 ■ ※「両協議会」所属

【取組状況等】

- ・指定河川洪水予報は開発建設部と共同発表している。運用の確実化と若手職員の操作習熟を目的に演習を実施した。
- ・函館開発建設部と合同勉強会を初開催した。
- ・函館開発建設部今金河川事務所と連携して「1日防災学校」を実施した。
- ・流域平均雨量を用いた気象解説への取組みを実施しており、流域平均雨量と水位、水害との対応を調査し、予測値を用いた地域防災支援の方策を検討中である。
- ・令和8年5月下旬から防災気象情報体系が変更される。運用開始に向け、今後も引き続き説明予定である。

【代表者コメント】

- ・地球温暖化に伴い大雨の降る地域が北上している。新潟・秋田・青森などで毎年のように災害が発生しているが、昨年は北海道でも初めて線状降水帯の発生があった。檜山地方でも、いつ起きてもおかしくないという前提で備えていただきたい。
- ・令和8年5月からの防災気象情報体系の変更について、住民がとまどうことがないよう普及啓発に努めていきたい。



台長（代理）次長 大我一憲

■狩場利別土地改良区 ■

※「両協議会」所属 欠席のため事務局より説明

【取組状況等】

- ・後志利別川流域では令和2年5月に流域治水協定を締結しており、対象ダムで一定の大雨基準を満たす場合に事前放流を行うこととしている。
- ・今季は事前放流に至る規模の降雨はなかったが、協定に基づき対象期間中は貯水位を低下させる運用を行い、降雨に備えた。

■檜山広域行政組合 せたな消防署■

※「減災協議会」所属

【代表者コメント】

- ・函館開発建設部主催の水防講習会に職員だけでなく水防団員も積極的に参加している。水防技術リーダーを増やし、災害対応へ備えたい。
- ・関係機関と連携し、発災前からの情報収集・共有によって、早めの対応で被害の軽減に努める。



署長 髙谷 睦

■檜山広域行政組合 今金消防署■ ※「減災協議会」所属

【代表者コメント】

- ・新たにドローンを導入し、9月から訓練・運用を開始した。大雨時は飛行に制約があるが、小康時の被害把握や危険個所の把握に活用できる。また、最新カメラやサーマル、スピーカーを搭載し、遭難者への避難呼びかけにも活用できる。
- ・ドローン操縦士の確保が課題である。現在4名いるが、実働部隊との兼務もあり人員が不足している。消防団員やドローン操縦に特化した人の協力を得る必要がある。また、水害時は勤務との両立で団員の参集が難しくなる傾向があるため演習と連携で補っていききたい。



署長 小野 尚孝

■北海道警察 函館方面せたな警察署■

※「減災協議会」所属

【代表者コメント】

- ・「自分事化」は極めて重要である。特殊詐欺は分かっているにもかかわらず被害は発生する。災害も同様に自分のこととして備える必要がある。
- ・流域図を見ると支川が多く、線状降水帯が発生した場合、時間差で本川に大量の水が流入し危険である。災害は休日・夜間など手薄な時間帯に起こることが少なくない。迅速な情報伝達と初動対応の体制強化が課題である。日頃からの各機関との情報共有、訓練の参加を通じて対応していきたい。



署長 宮下 賢一

■北檜山市街地町内会■ ※「流域協議会」所属

【代表者コメント】

- ・日々現地を見ているが、真駒内の河道掘削などの整備によって堤防天端付近まで水位が上がるのがなくなった実感がある。
- ・気象台による防災講話で、前線や気圧配置等の見方が分かるようになった。
- ・町内会として、住民への周知と研修を進めたい。住民の就労実態を踏まえ、夕方以降の開催など運営面の工夫も必要だと感じてる。



会長 井上 義章

■今金連合町内会 ■ ※「流域協議会」所属

【代表者コメント】

- ・令和4年8月の大雨時、想定外の事象が多発し、町内会の防災委員会が十分機能しなかった。
- ・反省を踏まえ、令和5年以降は毎年防災研修を実施している。昨年は美利河ダム職員による講演や、防災ガイドマップを活用した研修を行った。
- ・今年も町と関係機関と合同で防災研修を行う予定である。



■田代地区連合自治会 ■ ※「流域協議会」所属

【代表者コメント】

- ・令和4年8月の大雨時、避難所が今金中学校で橋を渡らなければならぬリスクがあり、今金農協の施設を一時避難場所として位置付けた。冠水時の安全な到達ルートの検討が今後の課題である。



■函館開発建設部 ■ ※「両協議会」所属

【取組状況等】

- ・本川の河道掘削・樹木伐採、堤防整備により流下能力・安全度を向上させた。
- ・水防資材の備蓄や水防技術講習会、機械操作訓練、一日防災学校（小学校対象）を実施した。

【代表者コメント】

- ・災害時は関係機関の連携が要となる。日頃から「顔の見える関係」で情報共有し、実際に想定した訓練を重ねることが必要である。また自分事化をするには地域住民に参加していただくことが重要である。
- ・ハード対策は時間を要するが、効果的・効率的に推進する。その上で関係機関が連携した取り組みが必要となる。

